

だくりゆう こ いなだにさいがい きろく  
濁流の子～伊那谷災害の記録(出版物)

忘れない  
— 災害の記録

1961(昭和36)年6月下旬に伊那谷を襲った豪雨災害「三六災害」。その災害を目の当たりにした小学生、中学生、高校生らの作文を集め、1964(昭和39)年に発行された冊子。碓田栄一さんが個人で編集作業に当たった。文集には当時の学童、生徒自身の言葉で災害の恐ろしさ、友人を失った悲しみ、災害で家や田畑を失った状態での不安な高校受験、見知らぬ人々からの励まし、復興の様子などが綴られている。



碓田さん編集の貴重な記録冊子

死線をこえて

みやこのうちへ  
「おんどりや」のそこから  
水がへってきた

ようさ\*1  
みやこたちがねるとき  
水が うんと  
にわのところへはいつてきた  
とおり\*2 までついてきたもんで  
とうちやが  
「にげる」ちゅった\*3

おとうちやと おかあちは  
うちぐらへみにいった。  
おじいちやが  
「くらがいい」とおもったもんで  
みやこたちも みんな くらへ  
へえった。

そのとき

水が うんと 川のように  
きたもんで

くらは  
つぶれちゃった。  
みやこは  
土や、すなや いろいろ いっぺえ  
のんだ。

うりやぶの ところまで  
ながされて いった。  
おとうちやが  
「しんじゃあ たまらん」と ゆった。  
ゆずらの きのとこに  
おとうちやは  
おちたもんで  
うまく すわれた。  
それで  
でんきんばしらに つかまった。  
「ゆき」が ちょこんと  
くらの まんなかに たっていた。

みやこは

おじいちやと  
おばあちやの  
あいさへ へえって  
くるしかった。  
みやこの とこへ  
木や ざいもくや ふとん やら  
いっぺえ きたもんで  
おとうちやが  
ざいもくや いろいろ どうかして  
だしてくれた。  
そのとき  
おじいちやや  
おばあちやは  
しんどった

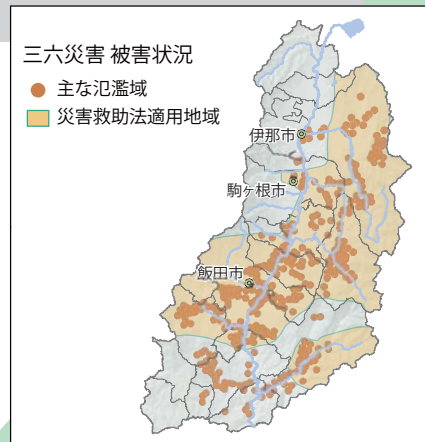
\*1 夜 \*2:土間 \*3:言った

「濁流の子」より (聞き取りによる文章。担任が特に加筆、訂正はしていない)

独力での  
編集  
災害伝承

災害当時は高校生だった碓田栄一さんは、<sup>うすだ</sup>大学生になり、独自に災害記録を収集した。集めた記録約千点の中から、80点を手書きで書き写し、200ページもの文集にまとめ、ガリ版の原紙切りから印刷までをほとんど独力で行い発行した。

冊子に収録できなかった作文が、碓田さんにより保管されている。過去の災害事例を防災教育などに活用するための伝承ツールとして、見直されている。



(天竜川上流河川事務所HPより)